

家庭教育學級新聞

日向小学校第1回家庭教育学級
「現代っ子の性の実態と性感染症」

先生の話より

児童生徒の性行動の要因として、「両親の仲が悪い」「親子の仲が悪い」など家庭でのさみしさや心の満たされなさが大きい。

アドバイス

子どもに愛を伝えてください！

お父さんお母さんに愛され、特別な存在だと
実感できることが大事。スキンシップもお勧め。
生まれた時や小さい時の話も喜ぶ。

小学生時代、しっかり子どもに親の愛を伝えることができれば、不必要な性行動に走ることを防げるのですね。

過激な内容のものを
見ていたら、いきなり否定せず何
に共感しているか

性の情報源は雑誌やネット。ラインがらみの事

性については、聞きたくない子もいるし、知りたい子もいるので、その子に合

十月十日、日向小で「性教育、親としてどう子どもと向き合う？」をテーマに家庭教育学級が開催されました。まず、テレビで放送された性教育のドキュメンタリー番組を見た後、座談会形式で各家庭での対応などについて意見が出されました。

その後、旭中央病院助産師で上級思春期保健相談員の綿貫美恵氏の講演を聞きました。講師から小学生が買っているとされる雑誌を実際に見せてもらうと驚きの声が上がりました。親が知らない子どもたちの現状のほか性感染症の恐ろしさ、産科現場での話まで聞くことができました。

参加者からは「親も知識を持ち、聞かれた時に適切な反応ができるよう準備をしておくことが必要だと思った」「普段から子どものことを気にかけて愛情を注ぐことで子どもへの気持ちや体の変化を見過ぎさないように気をつけたい」「学年を超えた保護者の生の声を聞けてよかった」などの感想が出ました。

多くの参加者を得て、★関心の高さが伺える家庭教育学級でした。

子どもが決める
小学校へ入学してまもなくの頃、娘がピアノを習いたいと言いました。送って行くことはできないので、自分で歩いて行けるところであれば行つてもよいことにしました。自分で決めたことなので、休むこともなく、大学生活になるまで続けました。
他のことについても、親は相談には乗つても決めるのは子どもに任せました。進路も、全て自分で決めさせました。内心ははらはらはしましたが、子どもが自立して生きるためには、自己決定できないといけなないと考え、敢えてそうしてききました。

マイナスをプラスに
娘が小学校六年生のとき、交通事故に遭いました。その事故で夫が亡くなり、娘も大きな怪我を負いました。一週間意識がなく、右脚切断の恐れもありました。お医者さんや看護師さんの必死の治療や看護により、娘は一命を取り留め、右脚も切断せずに済みました。

子どもとの約束
 買い物に行くとき、いろいろな物を欲しがるとき、一つしか買えないので、約束しました。この約束は、小学生の頃まで続き、約束を破ることはありませんでした。

子どもを本気で叱る
 幼少期は、何にでも興味を持ち、親がやつて欲しくないと思うことや危険なことをやりたがります。特に、危険なことや人を傷つけるようなことをした時は、目を見て思い切り叱りました。叱った後、なぜ叱られたのかを子どもが分かるように話しました。

赤ん坊の頃、育児書を教科書にして育てようと思つた時期がありました。その通りにくはずがなく、違いにイライラしました。義母の育て方との違いにイライラしたこともあります。しかし、日々成長する我が子を見てみると、次第にどんな育て方をしてもいい育つんだという思ひに変わりました。そう思うと、子育てが楽になりました。大きく構え、育つのを待てるようになりました。いつのまにか育児書に頼らなくなっていました。

私には社会人となった娘が一人おります。子育ての頃が懐かしいと感じられる年齢となった今、改めてその頃を振り返る機会をいただき感謝しています。

できし、どこをどう振り返っても、人に自慢できるようなことはなく、只夢中で育ててきたというのが本当のところですよ。その中で、誰もが経験する親としての不安や悩みを、私なりにどう乗り越えてきたかをお伝えできればと思います。

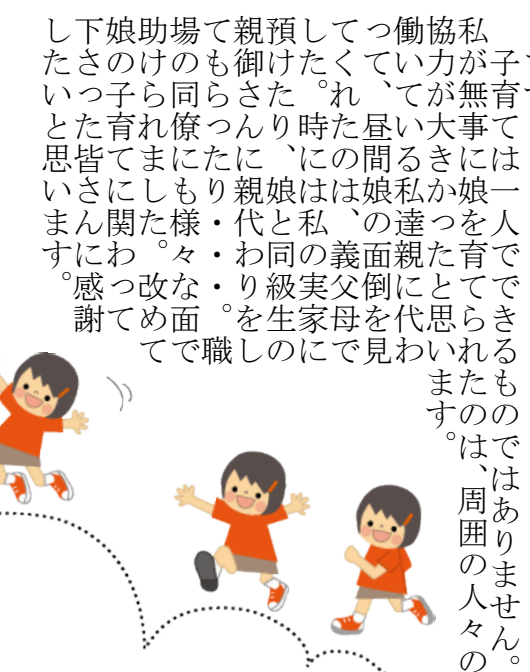
子どもは育つ力がある

リレーコラム第9回
我が家の子育て

山武市立南郷小学校教頭 佐久間ますみ



私が無事に娘を育てることができるのは、周囲の人々の協力のおかげです。私には娘を育てるだけの力がないので、娘の成長をサポートするために、娘の生活に深く関わっています。娘の将来のために、娘の生活に深く関わっています。娘の将来のために、娘の生活に深く関わっています。



Three children, two girls and one boy, are jumping over a dotted line. They are all wearing red shirts and orange shorts. The child on the left is a boy with black hair, the middle child is a girl with black hair, and the child on the right is a girl with black hair. They are all smiling and looking towards the camera.

私が仕事から帰るのはどうしても夜になってしまいます。帰宅すると、娘は中からドアを開け「ただいま」と言い、私が「お帰り」と言いつて中に入ります。そうしないと、娘は母親に「ただいま」を言うことができないと考えたようです。娘のアイディアで始めた逆転の挨拶は、中学校まで続けました。

また、触れ合う時間が短いので、互いに遠慮せず、何でも話すようにしました。子どもだからと言つて適当に受け流すのではなく、かなり本気に突っ込んだ話もしました。それが、今の娘の考え方の基本になつてゐる部分もあるようです。

きました。

その後、八回の手術やつらいリハビリを乗り越え、後遺症や傷跡はあるものの心も身体も回復し、今日にいたっています。

子どもとの触れ合い

その時は、命さえ助かつてくれればいいというのが親としての素直な思いでした。しかし、右脚は残ったものの、歩けない、脚が曲げられない、大きな傷跡等小学校六年生の娘にとつては、ダメージが大き過ぎました。どう娘に声を掛ければいいのか、どう立ち直らせればいいのか悩みました。母子家庭になつてしまつたこともあり、子育ての中で一番苦しい時期でした。

現実を受け止め、娘に将来の希望を持たせなければなりません。それには、慰めの言葉は意味がないと考え、怪我をしたことで、よかつたことを娘と探しました。自分の命を救うために必死で頑張つてくれた病院の人々と出逢えたこと、心配して何度も見舞いにきてくれた先生や友達の良いさを感じることができたこと、そして何より、身体にハンディを持つている人の気持ちたちが分かつてきたこと等。探すうちに、毎日少しずつ気持ちに変化し、怪我をしたからこそ、人として大事なことを学べ成長できるんだというプラスの考えができるようになっていきました。

※このコーナーは、リレー形式で順次自分の子育てについて、エピソードや思うことなど気ままに書いていただく予定です。お楽しみに。



豊岡小第2回家庭教育学級



「食べることは生きること」

講師 江崎京子氏（千葉県生涯大学校講師）

10月25日（金）に豊岡小で江崎京子氏を迎えて家庭教育学級が開催されました。

先生は、ネパールで7年間4人の子育てをした経験や栄養士としての観点などからお話をされました。簡単おやつ作りと子育てについての話を聞くことが一緒にできるお得な講座でした。最初に仕込みをして、出来上がるまで子育ての話を聞きました。そして、出来上がったバナナケーキはみんなでおいしくいただきました。

参加者からは、「炊飯器で簡単にできたから、子どもと作ってみようと思う」「早起きと分数の大切さがわかってよかった」「心の指定席は本当だと思う」などほか、「ネパールの話が聞けて良かった」「日本は恵まれていると思った」など日本の良さに気づかされたとの感想も出ました。



「子育て15年、今をしっかりと」と講師の江崎先生



先生のお話のポイント

- ★「早寝早起き朝ごはん」は、感情のコントロール、気力の元
- ★子育てのシャワーをたっぷりと・・・お母さんが台所で食事の用意をしている音や気配が日常の原動力になる
- ★子どもの心の指定席・・・母の中、家族の中、学校の中
- ★兄弟が多い時、弱った子がいたらその子だけ特別にしてあげるのは、不公平ではない
- ★兄弟を比較しない
- ★親は子どもの手本・・・先生への態度をきちんとすれば、子どもも同じ様になるようになる
- ★母の1日の予定を子どもに知らせておくとう安心するし、中学高校になった時、自分の予定をちゃんと言うようになる
- ★小学生でやる分数はしっかり理解させよう、理解できるまで親と一緒にやろう

栄養バランス
ばっちりのおやつ
を作ろう！



簡単おやつ・・・電気炊飯器でつくる手作りバナナケーキ（5合炊き炊飯器）・・・

材料

バナナ・・・1本、ホットケーキミックス・・・200g、アーモンドプードル・・・50g、プルーン・・・50g、砂糖・・・40g、バター・・・40g、牛乳・・・120cc、卵・・・1個

作り方

1. バターを湯煎かレンジで溶かす
2. 5合炊きの炊飯器の底に少量のバターをぬる
3. バナナの皮をむき、少し斜めに7ミリ位に切り炊飯器に並べる
4. プルーンはみじん切りにしておく
5. ホットケーキミックスとアーモンドプードルを混ぜておく
6. ボールに卵をとき、牛乳、砂糖、プルーンを入れ、よくかき混ぜておき、5の粉を入れざっくり混ぜ、最後に溶かしバターを混ぜ合わせる
7. バナナを並べた上から流し入れ、スイッチを入れてそのまま切れるまで待つ
8. ふっくらしたケーキの出来上がり（中がもう少しの場合は、保温で5分ほど様子を見る）



昭和58年頃の江崎先生のネパールでの生活は想像以上のものでした。肉が食べたかったら、豚を飼って育てるところから始まるなど、日本では考えられないですね。「肉が食べたかったら、スーパーに行けばすぐに買える・・・これは日本の国力なのですよ」という先生の言葉で、改めて日本の素晴らしさを実感しました。

また、日本の学校は先生が父母の役割までしていて、これは世界の中では珍しいことだそうです。日本で当たり前のことも外から見ると、恵まれていることに気がつきます。



先生のお話のポイント

- ◆ 2, 3歳の頃、我慢できたらニッコリしてほめると、うれしくてまた我慢できる
- ◆ 小学生の時期は、遊びで集中力、創造力、思考力が育ち、お手伝いで自信がつく、どんな人とでも遊べるように育てる
- ◆ 結果ではなく努力をほめる
- ◆ 中学生になったら人格を尊重する
- ◆ 「親がいつも心にかけてくれている」と子どもが思えばいい「何かあったら教えてね」とっておく

家庭教育学級合同開級式講演会報告

今年度の合同開級式講演会が、去る5月24日（金）午前10時から のぎくプラザで開催されました。

今回の講師は東京家庭教育研究所前所長の丸山貴代先生で、「だいじょうぶ！気づいた時が出発点」という演題で講演をしていただきました。涙を流して聞く参加者もいるなど、とても心に残るお話でした。



息子が中学生になると授業参観に親が来るのを嫌がり「来なくていいから」と言われた。それを真に受け、行かなかったことを思い出した。丸山先生によると「来なくていいから」は「来てほしい」ということだそうです。今さらながらですが、反省しました。今、そんなことを言われているみなさんは、子どもが何と言おうともぜひ行ってあげてくださいね。

9月18日に成東中と成東小・大富小合同のミニ集会兼家庭教育学級が開催されたので行ってきました。市川警察署少年補導専門員の上條先生の講演でしたが、補導専門員の間では「過干渉と放任は絶対だめだね」というのが常識だそうです。また、子どもたちのスマートフォンの危険性を強く訴えられました。子どもにねだられて買い与えるだけではだめで、親自身がよく理解していないといけないうことや制限をかけること、特に名義は必ず保護者にしておく必要があることなどの話がありました。参考にしてください。

担当 加瀬